

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成30年6月25日

川越市長 川合善明 殿

提出者

住 所 埼玉県川越市中台二丁目2-10

氏 名 川研ファインケミカル株式会社 埼玉工場

取締役埼玉工場長 高梨宏司

電話番号 049-242-3253

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	川研ファインケミカル株式会社 埼玉工場		
事業場の所在地	埼玉県川越市中台二丁目2-10		
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日		
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
① 事業の種類	化学工業		
② 事業の規模	資本金	480,000千円	
	製造出荷額	2,468,000千円	平成28年度
③ 従業員数	88名		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥一別紙2 廃油一別紙3		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)  
添付資料(1) 埼玉工場組織図(環境)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 無駄を省き、必要最小限の使用量と排出量になるよう生産した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 無駄を省き、必要最小限の使用量と排出量になるような生産計画に基づいて操業する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥(スラリー)、廃油、汚泥、廃プラ、蛍光灯、廃乾電池、金属くずに分別し、リサイクルを容易にしている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥(スラリー)、廃油、汚泥、廃プラ、蛍光灯、廃乾電池、金属くずに等分別を徹底し、リサイクルを容易にする。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥(スラリー)	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	4585.7 t	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥の発生量は生産量に依存するが、必要最小限の発生となるよう実施した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥(スラリー)	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4500 t	t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥の発生量は生産量に依存するため、前年度並みとした。		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 廃油、汚泥の発生量は生産量に依存するが、必要最小限の発生となるよう実施した。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙

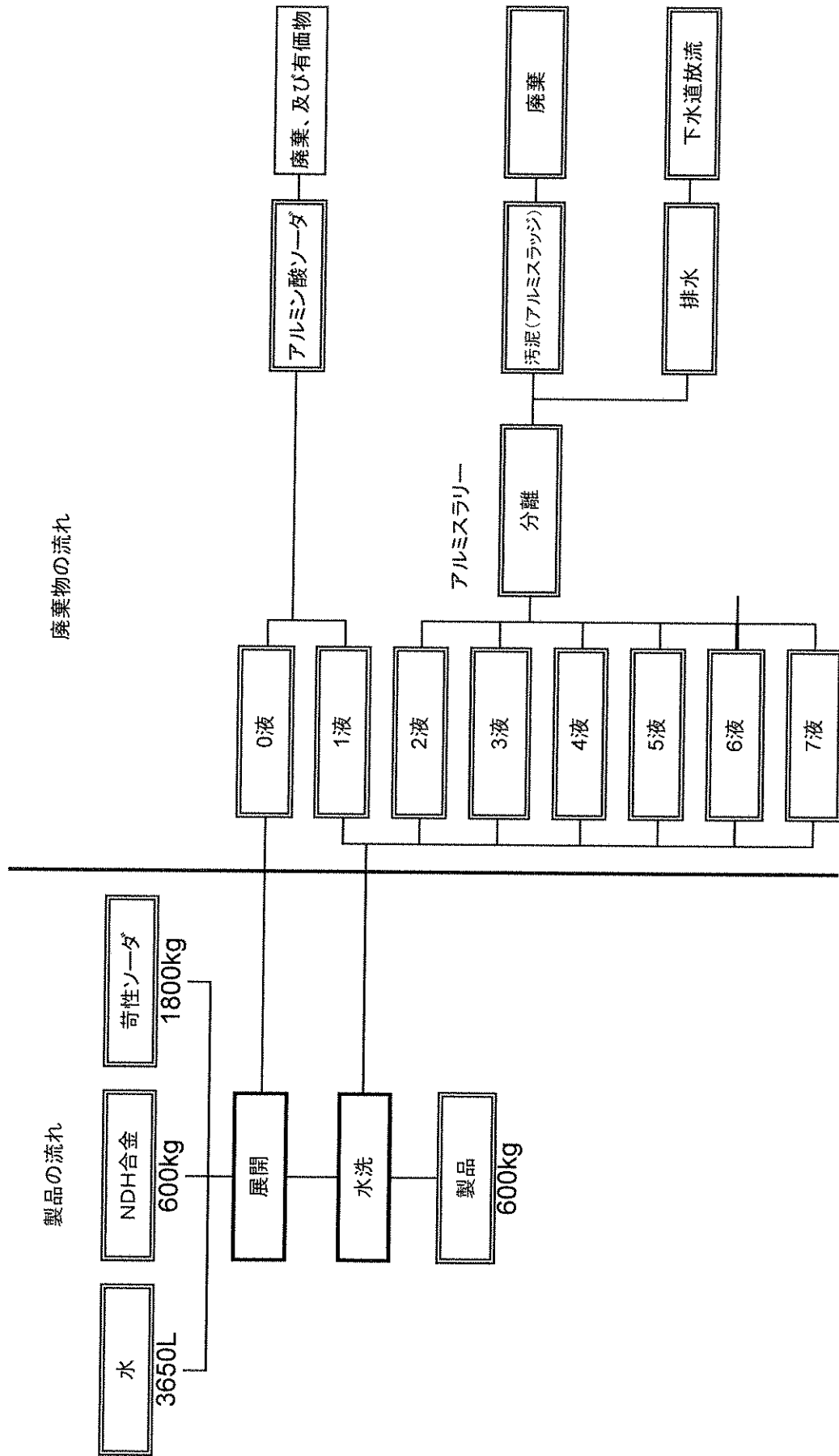
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	平成29年度実績					
	産業廃棄物の種類	汚泥(スラリー)	廃油	汚泥	廃プラ	蛍光灯、 廃乾電池、 金属くず
	排出量	4798t	488.4t	11.7t	2.7t	0.04
② 計画	目標					
	産業廃棄物の種類	汚泥(スラリー)	廃油	汚泥	廃プラ	蛍光灯
	排出量	4800t	520t	12t	3t	0.1t
	(今後実施する予定の取り組み) 汚泥の発生量は生産量に依存するため、前年度並みとした。					

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	平成29年度実績				
	産業廃棄物の種類	廃油	汚泥	廃プラ	蛍光灯
	全処理委託量	488.4t	11.7t	2.7t	0.04t
② 計画	目標				
	産業廃棄物の種類	廃油	汚泥	廃プラ	蛍光灯
	全処理委託量	520t	12t	4t	0.1t
	(今後実施する予定の取り組み) 廃油、汚泥の発生量は生産量に依存するが、廃油は増産が見込まれるため、前年の一割増とした。 廃プラ、蛍光灯に関しては取り壊し予定の建物があるため増加を見込んだ。				

廃アルカリ

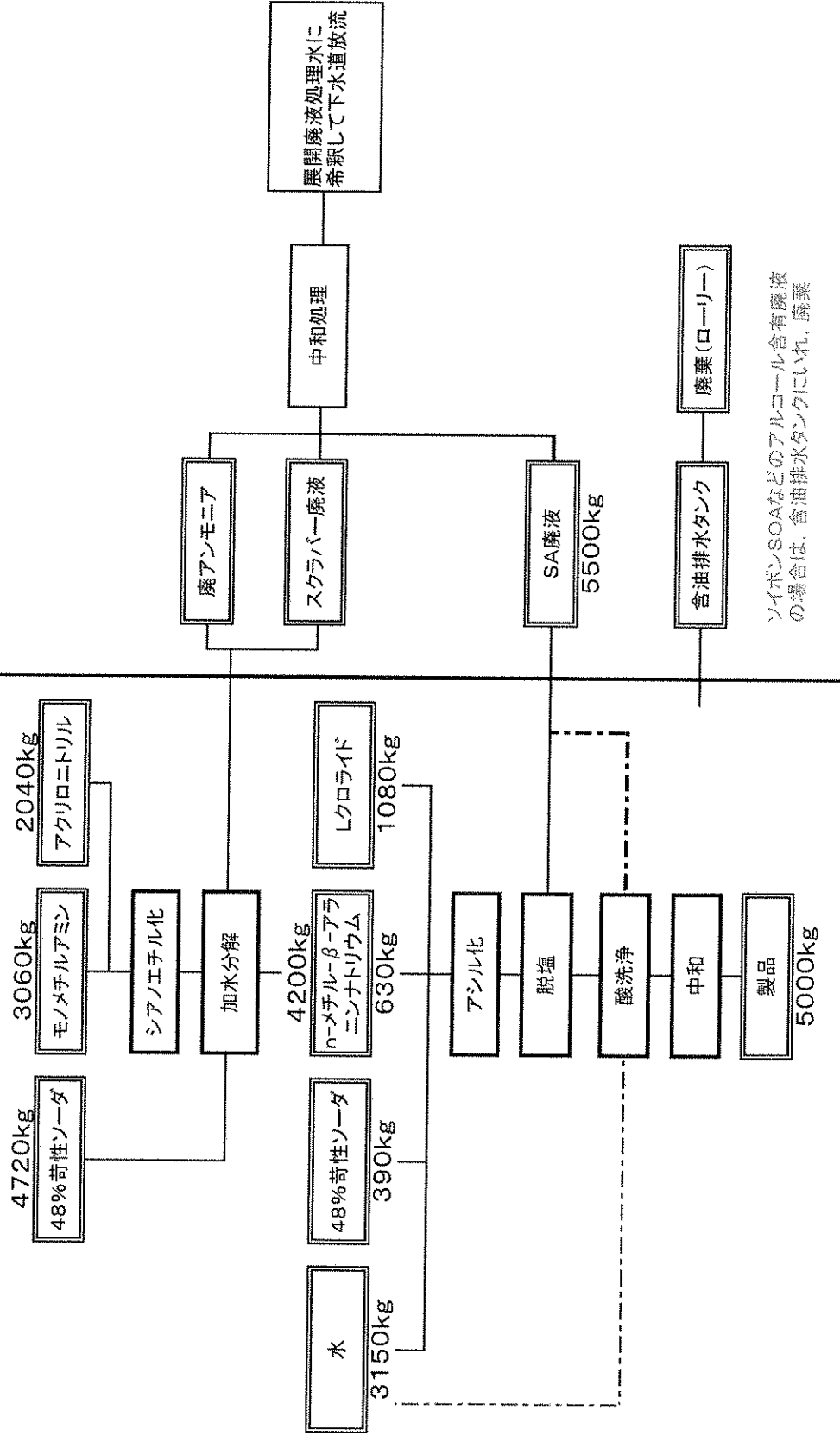




アラノンALE

廃棄物の流れ

製品の流れ



ソイボンSOAなどのアルコール含有廃液の場合は、含油排水タンクにいれ、廃棄

